

目 次

1. このマニュアルの特徴	253 ページ
2. 外国人のためのやさしい日本語について	
「やさしい日本語」とは	254 ページ
「やさしい日本語」の有効性	254 ページ
3. 伝えるべき情報の抜き出しについて	
阪神大震災発生後3日間の放送活動記録表	257 ページ
4. やさしい日本語を使った案文について	
このような特徴があります	260 ページ
5. ポスターやビラについて	
ポスターやビラを作りました	261 ページ
このような特徴があります	261 ページ
6. 情報地図について	
情報地図を作りました	262 ページ
このような特徴があります	262 ページ
このようにつくりました	262 ページ

7. 大使館の連絡先について

大使館連絡先をまとめました	263 ページ
このような特徴があります	263 ページ
安否情報を伝えてください	264 ページ

8. 翻訳・通訳ボランティアリストについて

翻訳・通訳ボランティアリストを作りました	264 ページ
このような特徴があります	264 ページ

9. もっと詳しく知りたいときに（参考文献）

阪神大震災の報道の様子を知りたいときに	265 ページ
阪神大震災のときに外国人の様子について知りたいとき	265 ページ
阪神大震災のボランティア活動について知りたいときに	266 ページ
阪神大震災の全貌を知りたいときに	266 ページ
災害と情報の関係について知りたいときに	266 ページ
災害時の外国人対策としてことばの面から研究したもの	266 ページ
日本語をわかりやすくしたいときに	267 ページ
わかりやすい視覚デザインについて知りたいとき	267 ページ
既存の災害対策刊行物	267 ページ
在日大使館のホームページ	268 ページ
阪神大震災を情報の面から見たホームページ	268 ページ
わかりやすい文章に関するホームページ	268 ページ
日本語学習に関するホームページ	268 ページ
ユニバーサルデザインに関するホームページ	268 ページ

1. このマニュアルの特徴

2005年の1月で、神戸での地震からまる10年になります。2004年の10月には新潟でも大きな地震が起きました。2003年の7月には宮城で同規模の地震がありました。地震災害は日本中のどこで起きていても不思議ではありません。

このような中、日本語に不慣れな外国人は、自分取るべき行動の指針となる情報が得られないため、不安を募らせます。日本人との摩擦が起こる場合もあります。そこで私たちは言語研究者として、「減災」という立場をとることにしました。災害が起きたあとに、適切な情報を的確に伝えることは、被災者の心の負担を軽減できると考えたためです。

発災時には、どの時点で、どんな情報を伝えるかが重要となります。このマニュアルでは、さまざまな言語を話す外国人に、外国語ではなく、その瞬間瞬間に必要なとされている情報を「やさしい日本語」で的確に伝えることを提案しています。「やさしい日本語」とは、友人との待ち合わせ（場所や時間を約束する）をしたり、自分の欲しい物を説明して買いたい物ができる程度の日本語能力があれば理解できる表現のことです。このマニュアルでは、やさしい日本語と絵や地図を用いながら情報を伝える方法を解説しています。

私たちはまた、被災者が自力で生き延びねばならない時間を72時間と想定し、その間に必要となる情報は事前に用意することができると判断しました。多言語情報が得られる避難所まで外国人を誘導し、通訳ボランティアや行政の国際課などが機能するようになるまで、安心して生活してもらうための表現を案文として具体的に用意しています。

このマニュアルでの対象時間を発災から72時間としたのにはつぎのような理由があります。過去10年間に日本で起きたいずれの災害においても、また海外での事例（たとえば94年のアメリカ、ノースリッジでの地震）でも、行政が復旧する、あるいは救援団体が立ち上がるまでには発災から3日を要しているためです。

このマニュアルの構成は以下のようになっています。

- I ラジオ放送や防災無線、テレビでの字幕スーパーに使える「やさしい日本語」の案文を時系列に配置しています
- II 発災直後から使える「やさしい日本語」を用いたポスターやビラの具体例があります
- III 外国人にとって必要となる外国語で治療を受けられる病院のリストやボランティア団体への連絡方法、大使館への連絡方法などを記載しています
- IV 「やさしい日本語」が考え出された経緯や基礎資料となった文献のリストがあります

2. 外国人のためのやさしい日本語について

「やさしい日本語」とは

「やさしい日本語」とは、災害が起きたときに外国人に大切な情報が伝わらず、被災者が二重に被災してしまうことを防ぐために作られた表現方法です。

■ 「やさしい日本語」ができた経緯

災害が起こったとき、行政やマスコミからの掲示物・放送などによって、災害情報や避難情報が、その地域の住民に流されます。しかし、住民の中には日本人だけではなく、日本語に不慣れな外国人もいます。日本語に不慣れな外国人にも確実に情報を伝えるためには、彼らの母語で伝えることが最も有効です。しかし一口に母語で伝えるといっても彼らの国籍はさまざまであり、また使っている言語も多様です。災害時には、重要な情報はたくさんあり、そのすべてを多言語に言い換えることは難しく、時間もかかります。また、外国人向けの情報を伝えるために英語だけに依存すると、日本に住んでいる外国人を救いきれなくなります。彼らの多くは英語を話さない国からの来訪者（居住者）だからです。

そこでわたしたちは、災害発生時の情報伝達に使うことばを、多言語や英語ではなく、簡潔でわかりやすい日本語にしようと研究してきました。その結果できたものが「やさしい日本語」です。

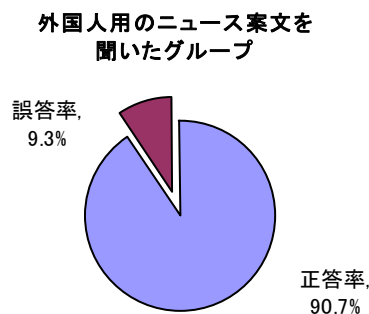
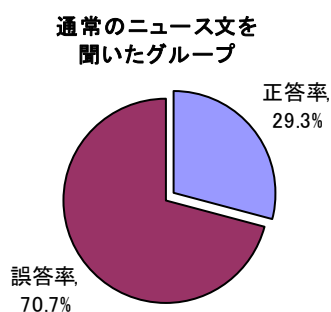
「やさしい日本語」の有効性

やさしい日本語は普通の日本語と比べて外国人にとって理解しやすいものなのか、その有効性を検証しました。

以下の内容は、『災害時に使う、外国人のための日本語案文 ラジオや掲示物などに使うやさしい日本語表現』（「災害時の日本語」研究グループ、1999）をもとにしたものです。同グループは、やさしい日本語の有効性を検証するために聴解実験を行っています。

■ 検証結果

- 外国人のための日本語案文（以下「やさしい日本語案文」と称す）を用いた表現では、現行のNHKニュースを聞いたときよりも、理解度が著しく高くなりました。
- やさしい日本語案文は、日本語初級後半から中級前半程度の外国人でも、理解することが十分可能でした。
- やさしい日本語案文を用いた災害時の情報伝達は、日本語に不慣れな外国人にとって、とても有効でした。



■ 聴解実験の詳細

(1) 実験の目的

簡単な日本語での日常会話ができる程度（初級後半～中級前半）の外国人が、簡潔な表現に言いかえた地震のニュース（やさしい日本語案文）を聞いて、

- どの程度理解するか
- 普通のNHKニュースに比べて、理解度が高まるかどうか

を調べました。

(2) 仮説

簡単な日常会話ができる程度の外国人にとって、通常のニュースを理解することは、非常に難しいと思われます。しかし、やさしい日本語案文を用いたニュースでは、その理解度は著しく高くなると思われます。

(3) 実験の概要

◆ 被験者

- レベル 日本語初級後半～中級前半程度
(日本語学習歴5ヶ月～2年程度、あるいは日本滞在歴5ヶ月～2年程度)
- 所属 京都外国語大学留学生科、龍谷大学留学性別科、京都橘女子大学、神戸商科大学に在籍する外国人留学生、交換留学生、学部学生
- 人数 36名
- 出身地 中国、台湾、韓国、スペイン、イギリス、アメリカ合衆国、

アイルランド、オーストリア、カナダ、ドイツ、ノルウェー、
ブラジル、マレーシア、ミャンマー

◆ 実施時期

○ 1998年11～12月

(4) 実験の方法

◆ 聴解実験用ニュースの作成

災害時に、実際に報道されたNHKのニュース原稿のニュース文(A)と、やさしい日本語で作ったほぼ同内容の外国人用のニュース案文(B)を、5文ずつ作成しました。

◆ 音声テープの作成

これらの文を、それぞれのテープに録音しました。(A)の文は、NHKのニュースの速度に近い、ほぼ1分間400拍※の速度で録音しました。(B)は、その約半分(1分間200拍程度)とし、文と文の間のポーズ(句点)を二秒ずつ空けて、録音しています。

※一拍はひらがなで一文字分に相当します。ただし「ちゃ」などの拗音、「っ」などの促音、「つうろ」の「う」の部分のような長音も一拍で数えます。例えば「ピッチャー」なら「ぴ」「っ」「ちゃ」「ー」の四拍として数えます。

◆ 被験者のグループ

被験者は次の2グループに分けました。

両グループの日本語能力のレベルは、ほぼ同程度になるように事前にレベルテストを行ってそろえています。

(A)を聞くグループ……9名

(B)を聞くグループ……27名

◆ 解答方法

- それぞれのニュース文を一回ずつ聞いてもらい、質問文が記入された用紙に、その答えを書き込んでもらいました。
- 質問文は(A)・(B)ともに同じです。
- 質問文は日本語・中国語・ハングル・英語で書いてあり、答えもこれらの言語のうちのひとつを使用しました。

(5) 聴解結果

- (A) を聞いたグループでは、14 点満点中、平均 4.1 点 (正答率 29.3%)
- (B) を聞いたグループでは、14 点満点中、平均 12.7 点 (正答率 90.7%)

(B) を聞いたグループ 27 名のうち、12 名が 100% の正答率でした。

3. 伝えるべき情報の抜き出しについて

阪神大震災発生後 3 日間の放送活動記録表

災害が起こったときには、どのような情報が流されているのでしょうか。流された情報のほとんどは、災害時に必要とされるものです。被災者に求められる情報を選別し、それらをやさしい日本語にすることによって、効果的な情報伝達が行えると考えました。258～260 ページの表は、阪神淡路大震災（以下「阪神大震災」と称す）発生後の 3 日間（1995 年 1 月 17～19 日）にラジオで流された情報を、時間の経過に沿って抜き出しまとめたものです。『阪神大震災の被害者にラジオ放送は何ができたか』（毎日放送著、今井一監、同朋舎出版社、1995）、『勇気と希望をありがとう 震災と闘った神戸の小さな放送局の記録』（KISS FM KOBE 著、兵庫エフエムラジオ放送、1995）という 2 冊のラジオ放送の記録をもとに作成しました。表では情報を内容により大きく 7 つに分けています。一度出た情報は、その後出てきても削除して、情報が流された順番をはっきりさせました。

情報の種類は次のとおりです。

- ① 生活情報 ----- ライフラインに関わるもの、また店舗の営業状況や金融など、生活に関する情報
- ② 交通情報 ----- 鉄道、道路、空路の被害・復旧などの情報
- ③ 支援情報 ----- 被災者に対する避難や支援、ボランティアなどの情報
- ④ 自然情報 ----- 地震などの自然災害や気象の情報
- ⑤ 注意勧告 ----- それぞれの被害に伴って発令された注意、または勧告
- ⑥ 外国人関連情報 --- とくに外国人のために流された情報
- ⑦ その他の情報 ----- 上の 6 つにあてはまらず、あまり重要ではないと考えられるもの

<1月17日>

経過	生活	交通	支援	自然	注意勧告	外国人関連	その他
0 h				震度震源 津波注意	火災注意		見聞き
1 h	停電 電話制限 電話被害 ガス被害	道路被害 鉄道被害 空路被害	救出活動	浸水被害 余震注意 余震被害	屋外注意 建物被害 火災 道路注意		教養
2 h	断水 営業被害	鉄道安全 海路被害	避難所 被災者	津波安全	屋内注意		行政対策
3 h							
4 h					デマ注意		
5 h							
6 h		通行止め	消火活動	気象			情報収集
7 h	金融 ガス供給 停止 営業	鉄道運行 再開	支援		二次災害 注意避難 勧告		
8 h							
9 h	電気復旧 電話復旧	鉄道復旧			通行注意 ガス漏れ 避難勧告		
10~ 11 h							
12 h						外国人状況	
13 h	営業注意		安否 医療機関 被害				
14 h	休校		医療				
15 h	ガス復旧	海路				外国人相談 窓口	
16 h							
17 h			死者名				

< 1月18日 >

経過	生活	交通	支援	自然	注意勧告	外国人関連	その他
18h							
19h	住宅	空臨時便					
20h	臨時電話設置				建物避難 勧告		
21h	登校・出勤制限		避難場所変更				
22h							
23h		鉄道運休					
24h	給水車 給水		支援受付				
25h							
26h	給水場所告知						
27h					鉄塔倒壊 避難命令		
28h							
29h	大学入試 受付 ガス抜き取り 作業 銀行営業・休業		ボランティア 募集		ガス漏れ 避難勧告 解除		
30h			ボランティア 受付 住宅提供				
31~ 36h							
37h	水道復旧		ボランティア 登録 住宅相談窓口				
38h		海路運休					
39~ 42h							

〈1月19日〉

経過	生活	交通	支援	自然	注意勧告	外国人関連	その他
43 h							
44 h			生活支援				
45 h	無料電話 サービス						
46 h						外国人援助	
47 h	給水制限						
48～ 56 h							
57 h			ボランティア 活動				

4. やさしい日本語を使った案文について

このような特徴があります

やさしい日本語の案文を作る際には、日本語初級教本、ラジオ放送の文章、弘前大学の留学生に対する調査の結果をもとにしました。やさしい日本語といっても、ひらがなだけの表記では日本人にとって見づらいものになります。調査の結果、初級日本語（日本語能力試験3・4級程度）の漢字ならば、外国人にとっても読みやすいということがわかりました。そこでやさしい日本語の案文では、ルビを振った漢字を用いています。また、日本人にとって多少不自然な表現にしなければ、理解できないものがあることもわかりました。それらは、日本人にも十分意味の通じる表現なので、日本人・外国人の両方に対して使うことができます。

■ 放送用 時系列案文

この案文は災害が起こったときに伝えるべき情報の時間的な流れを知るのに有効です。案文は発災後から、時間の経過に沿った表に整理されています。時間は、災害発生～2分、2～5分、5～20分、20～60分、60～180分に区分されています。

■ 放送用 情報内容別案文

この案文集は、[放送用 時系列案文]の情報を内容ごとにまとめたものです。情報内容別案文は、阪神大震災のときの放送活動記録にあった情報（258～260 ページ参照）から、重要な情報を選んで作っています。案文は、内容によって分類しましたので、必要な文章の検索が円滑に行えます。

■ やさしい日本語の作り方

[放送用 時系列案文]、[放送用 情報内容別案文]にないやさしい日本語を用いた文章を作るための要点が書いてあります。

また、[言い換えリスト]を用意しました。このリストは、外国人にとって難しいことばを、やさしい日本語に言い換えて一覧できるようにしたものです。新しい文を作るときの参考にしてください。

5. ポスターやビラについて

ポスターやビラを作りました

災害が起こったときは、行政やマスコミから放送によってだけでなく、掲示物、配布物などによって災害情報や避難情報が伝えられます。しかし、情報を受け取る人の中には、日本語に不慣れな外国人もいます。そのような外国人にも確実に情報を伝えるために、やさしい日本語を用いたポスターやビラを作りました。

このような特徴があります

イラストを示した方がわかりやすい情報もあります。掲示物は繰り返し読むことができるので、何度も流される情報を選び、ポスターやビラにしました。災害発生時に少し手を加えるだけですぐに使える[ポスターやビラ集]、新たな掲示物を作る際に参考となる[イラスト集]があります。

6. 情報地図について

情報地図を作りました

外国人に必要と思われる情報を地図にまとめました。その情報を記した地図を情報地図と呼びます。次の4種類を作りました。

- 避難場所の地図
- 外国語の使える病院の地図
- 国際電話のかけられる公衆電話の地図
- 白地図

このような特徴があります

地図は日本語に不慣れな外国人にも使いやすいものになっています。例えば、方角がわからなくても、岩木山を確認できれば、地図上の方角がわかるようになっています。また、地図中の文章にはやさしい日本語を使っています。

このように作りました

(1) 避難場所の地図について

災害時には避難場所を知ることが必要になります。そこで避難場所を示した地図を作りました。

弘前市が指定している避難場所の中で地図の範囲内にある学校などの施設 53ヶ所・公園 84ヶ所を載せています。災害時にどの避難場所が実際に開設されるかわからないため、リストにはすべての避難場所を載せています。

(2) 外国語の使える病院の地図について

外国人が災害によってけがをしたときには、不慣れな日本語で自分の症状を伝えるよりも、使い慣れた言語で自分の症状を伝えるほうが、より適切な診療が可能になると考えられます。そこで[外国語の使える病院の地図]を作りました。

地図には、2004年10月に弘前大学人文学部社会言語学研究室が市内の病院を対象に調査を行い、外国語での診療に対応していると回答があった病院を掲載しています。

この情報は災害時だけでなく普段からも使うことができます。

(3) 国際電話のかけられる公衆電話の地図について

災害が起きたときには、外国人の中には日本国外に住んでいる人と連絡を取りたいと考えている人が多いと思われます。そこで国際電話のかけられる公衆電話の地図を作りました。

地図に載っている公衆電話の位置はNTT青森支部の資料をもとにしました。この情報は災害時だけでなく普段からも使うことができます。

(4) 白地図について

新たな情報を書き込むための地図です。新たな情報地図を作る際に情報を書き込んでください。情報を書き込む際は、漢字にはルビをふり、地図上の文章はやさしい日本語を使ってください。

7. 大使館の連絡先について

大使館の連絡先をまとめました

外国人が、災害時にどのような支援を求めているのか、留学生に質問したところ、日本にある自分の国の大使館と連絡を取りたい、日本以外に住む家族や友人に自分の安否を伝えたいという意見が多くありました。外国人は災害時に大使館へ自分の安否を伝える必要があります。そこで、在日大使館の連絡先をまとめました。

このような特徴があります

大使館の連絡先がわかるようになっています。

大使館にE-mailアドレスがなく領事館にある場合や、領事館が大きな役割を果たしていると思われるものについては、領事館についての情報もリストに加えました。また、日本と国交のない国についても、大使館や領事館と同じ役割を果たす機関がある場合は、その連絡先を掲載しました。

安否情報を伝えてください

災害が発生した時に、大使館へ伝えるべき安否情報を書き込める[安否確認用カード]を作りました。

8. 翻訳・通訳ボランティアリストについて

翻訳・通訳ボランティアリストを作りました

外国人は災害時に、翻訳・通訳のできる人を求めています。日本語に不慣れな外国人は、日本語によるコミュニケーションをうまくとることができません。そのことで生じる不安を取り除くためには、母語や使い慣れた言語による対応がなくてはなりません。

そこで、被災した外国人から言葉の通じない不安を取り除くために、翻訳・通訳ボランティアの協力が必要になります。災害発生時にすぐ連絡できるよう翻訳・通訳ボランティアの情報をまとめてリストにしました。

このような特徴があります

何語の翻訳・通訳が必要であるかが、ボランティア協力を要請する際に一番重要な情報となります。[ボランティアリスト 対応している言語の一覧表]で、それぞれのボランティア団体が翻訳・通訳可能な言語を載せています。[翻訳・通訳ボランティアリスト 連絡先]に各ボランティア団体の連絡先を載せています。

9. もっとくわしく知りたいときに（参考文献）

わたしたちはこのマニュアルを作るときに次のものを参考にしました。このマニュアルに載っている情報についても、もっとくわしく知りたいときに参考にしてください。参考文献は内容別に五十音順（題目）に並べました。

阪神大震災の報道の様子を知りたいときに

- 放送文化基金（1995）『あの日、あの時…何ができて、何ができなかったか』
- 宮田修（1995）『危機報道』関西書院
- 神戸新聞社編（1995）『神戸新聞の100日』プレジデント社
- 神戸の教訓を伝える会編（1996）『阪神・淡路大震災被災地“神戸”の記録』ぎょうせい
- 放送局編『阪神大震災とラジオ』（1995）朝日放送局
- 音声放送協会編（1995）『阪神大震災とラジオ—震災放送の検証と提言—』
日本民間放送連盟
- 関西テレビ株式会社編（1996）『阪神大震災の記録と教訓～そのとき関西放送テレビは～』
関西テレビ放送
- 毎日放送編今井一監修（1995）『阪神大震災の被害者にラジオ放送は何ができたか』
同朋舎出版社
- 毎日放送（1995）『阪神大震災の被災者にラジオ放送は何ができたか 「被災していない人への情報はいらない！といい続けた報道者たち」』同朋舎出版社
- KISS FM KOBE 編（1995）『勇気と希望をありがとう 震災と戦った神戸の小さな放送局の記録』兵庫エフエムラジオ放送局（非売品）

阪神大震災の外国人の様子について知りたいときに

- 江川育志研究グループ、松田陽子、陳来幸、真壁周三、松田利彦（1997）
『阪神・淡路大震災における—外国人住民と地域コミュニティ』神戸商科大学
- 神戸大学〈震災研究会〉（1997）『阪神大震災研究2 苦闘の被災者生活』
神戸新聞総合出版センター
- 外国人地震情報センター編（1996）『阪神大震災と外国人』明石書店
- 外国人地震情報センター（1996）『阪神大震災と外国人—「多文化共生社会」の現状と可能性』明石書店
- 留学生震災文集発行委員会編（1995）『忘れられない…あの日 神戸からの声』
神戸：留学生震災文集委員会

阪神大震災のボランティア活動について知りたいときに

- 後藤乾一編（1996）『阪神大震災における災害ボランティア活動』早稲田大学出版科学研究所
- 西宮ボランティアネットワーク（1995）『ボランティアはいかに活動したか 震災60日もうひとつの阪神大震災記録』日本放送出版協会

阪神大震災の全貌を知りたいときに

- 朝日新聞大阪本社編（1996）『阪神・淡路大震災誌』
- 西井一夫（1996）『阪神大震災』毎日新聞社
- 「阪神大震災&地震・防災 from1988」（エレクトロニック・ライブラリー、CD-ROM）

災害と情報の関係について知りたいときに

- 神戸市広報課編（1996）『防災都市・神戸の情報網整備』ぎょうせい
- 小川和久（1995）『LA危機管理マニュアル』集英社

災害時の外国人対策としてことばの面から研究したもの

- ダニエル・ロング、姜錫祐（1996）「外国人における緊急時報道の理解について」『言語』大修館書店
- 佐藤和之（1996）「外国人のための災害時のことば」『言語』大修館書店
- 松田陽子（1999）「外国人のための災害時の日本語」『言語』大修館書店
- 真田信治（1996）『『緊急時言語対策』の研究について』『言語』大修館書店
- エレン・ナカミズ、陳於華（1996）「緊急時における外国人の言語問題とその対策」『言語』大修館書店
- ダニエル・ロング（1997）「緊急時報道における日母語話者の言語問題」
- NHK放送文化研究室『検証・災害放送 1991～1994—地震・火山・台風・集中豪雨・大雪—』NHK放送文化研究所
- 「災害時の日本語」研究グループ（1999）『災害時に使う外国人のための日本語文案—ラジオや掲示物などに使うやさしい日本語表現』国立国語研究所 新プロ「日本語」事務局
- 小関雅子（2003）「災害時に使える情報弱者のためのやさしい日本語研究～伝えるべき情報と使えることばの検証を中心に～」弘前大学人文学部卒業研究
- 松田陽子、前田理佳子、佐藤和之（2000）「災害時の外国人に対する情報提供のための日本語表現とその有効性に関する試論」
- 佐藤和之（2000）『『災害時の外国人用日本語』マニュアルを考える—災害時情報と外国人居住者—』『日本語学』明治書店

- 佐藤和之（2004）「災害時の言語表現を考える」『日本語学』23巻10号（8月号）
- 佐藤和之、松田陽子、水野義道（1998）「震災時に外国人に伝えるべき情報とそのことば」
『「国際社会における日本語についての総合的研究」研究論文集1』
新プロ「日本語」総括班事務局
- 佐藤和之（1999）「震災時に外国人にも伝えるべき情報—情報被災者を一人でも少なくするための言語学的課題」『言語』大修館書店
- 松田陽子（1996）「多様な外国人に対する情報提供を考える」『言語』大修館書店
- 杉原達著（1996）「阪神大震災と多言語放送」『言語』大修館書店
- 柴田実（1999）「『やさしい日本語』は報道メディアの現場で実際に使えるか」
『言語』大修館書店
- 日本語協会編（1987）『NHK放送ことばハンドブック』日本放送出版協会

日本語をわかりやすくしたいときに

- 国際交流基金（1984）『語彙』国際交流基金
- 東京外国語大学留学生日本語教育センター（1994）『初級日本語Ⅰ』凡人社
- 国立国語研究所（2001）『日本語教育のための文法用語』財務省印刷局
- 佐藤理史、土屋雅稔、村山賢洋、浅岡正弘、王晴晴（2003）「日本語の規格化」
- T I J 東京日本語研究所（1994）『日本語ぶんぼう』凡人社
- 古川武時（1989）『日本語文法入門』（株式会社アルク）
- スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語初級Ⅰ本冊』
- スリーエーネットワーク（1998）『みんなの日本語初級Ⅱ本冊』

わかりやすい視覚デザインについて知りたいときに

- 秋田谷美代子（2002）「災害時のユニバーサルデザイン化」弘前大学人文学部卒業研究
- 太田幸夫（1987）『ピクトグラム〔絵文字〕デザイン』柏書房株式会社

既存の災害対策刊行物

- 弘前大学人文学部国語研究室編（1999）『災害が起こった時に外国人を助けるためのマニュアル（弘前版）』弘前大学人文学部国語学研究室
- （財）横浜市国際交流協会（Y O K E）（2001）『災害時に役立つ 外国語の表示シート集（横浜版）』横浜国際交流協会

在日大使館のホームページ

- 「外務省ホームページ（日本語）」
<http://www.mofa.go.jp/mofaj/>（2004/11/28）
- 「在日大使館・世界の大使館」
<http://www.net-b.co.jp/jbox/M1/9606M101.htm>（2004/11/28）

阪神淡路大震災を情報の面から見たホームページ

- 「阪神淡路大震災と情報通信」
http://www.kagawa-net.org/houkoku/saigai/sai_g2s.htm（2004/12/15）

わかりやすい文章に関するホームページ

- 「日本語原稿を作る際の留意点」
<http://www.yoke.city.yokohama.jp/tagengo/manual/5japgenko.html>（2004/12/15）
- 『『テキスト簡略化』プロジェクト』
http://www.pluto.ai.kyutech.ac.jp/plt/inui-lab/text_simp/（2004/12/15）
- わかりやすいマニュアル作成のための実践テクニカルライティングセミナー
<http://www.yamanouchi-yri.com/>（2004/12/15）

日本語学習に関するホームページ

- 「日本語読解学習支援システム リーディングチュウ太」
<http://language.tiu.ac.jp/index.html>（2004/12/15）
- 「日本語能力試験のひろば」
<http://momo.jpf.go.jp/hiroba/j/about.html>（2004/12/15）
- 「AOTS 日本語教育センター 研修生と話す場合の留意点」
http://nihongo.aots.or.jp/learn/006_1.html（2004/12/15）

ユニバーサルデザインに関するホームページ

- 「株式会社キテック」
<http://www.kitectec.co.jp/>（2004/12/15）
- 「株式会社ユーディット」
<http://udit-jp.com/>（2004/12/15）
- 「バリアフリーからユニバーサルデザインへ」
<http://web.sfc.keio.ac.jp/~s99433as/ud/>（2004/12/15）